

☎問い合わせ先

戦国屈指の知将

小早川隆景

ものがたり ⑧



三原城を築城し、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に隆景の生涯をたどります。

隆景の四国出兵

豊臣秀吉は、主君・織田信長を討った明智光秀を滅ぼすなど、信長の後継者としての地位を着々と築いていました。

天正13(1585)年、秀吉は四国で勢力を伸ばしていた長宗我部元親を討つことを決め、講和を結んでいた毛利・小早川氏に伊予国(現在の愛媛県)へ兵を出すように命じました。

この命を受けた隆景は自ら軍を率いて出陣し、秀吉軍とともに元親を降伏させました。この功績をたたえ、秀吉は隆景に伊予国を与えようとしていました。

秀吉の伝記『川角太閤記』によると、隆景の「豊臣氏から直接、伊予国をいただくことは毛利家の当主・輝元と肩を並べること

になり、亡き父・元就の思いに背くことになる」という思いを知った秀吉は、律義さを褒め、隆景の意向のとおり、一旦、輝元に伊予国を与え、輝元から隆景に与えるというかたちをとったとされています。

三原城に本拠を置いていた隆景ですが、天正14(1586)年3月に道後(現在の愛媛県松山市)の湯築城に移しました。

伊予統治と湯築城

隆景は伊予国統治のため、湯築城をはじめ10力所の重要な城を修築し、残りの城は取り壊そうとしており、このことを相談するために家臣・乃美宗勝に湯築城へ来るように命じました。

隆景の伊予国統治のようすを示した資料にポルトガルの宣教



▶国指定史跡 湯築城跡(松山市教育委員会提供)

師ルイス・フロイスの『日本史』があります。

フロイスは、「隆景はその深い思慮をもって平穩に国を治めている。日本では珍しいことだが、伊予国には騒動も反乱もない」と記しており、隆景の仁政を高く評価しているのが分かります。

秀吉の三原宿泊

四国を手に入れた秀吉は、天下統一のため、九州を治めたい島津義久を討つことを決めました。

秀吉は毛利氏に九州へ兵を出すように命じ、自身も九州に向けて、居城の大坂城を出発し

ました。
途中、三原で隆景の家臣たちから接待を受けて休息しており、先に九州に向かっていた隆景に、「至れり尽くせりのもてなしには感動した」と手紙で礼を述べています。



▲海から見た三原城跡(明治43年頃)

参考文献

『三原市史 第二巻 通史編』昭和52年

三原市役所 編集兼発行

『日本史11 西九州篇Ⅲ』

昭和54年 ルイス・フロイス著

松田毅一・川崎桃太郎

中央公論社発行

☎文化課

☎0848-649234

三原市の人口(9月30日現在)

※外国人住民を含む。
※()内は前年同月との比較。

世帯数	43,936 世帯 (-217)
人口	95,963 人 (-1,213)
男	45,953 人 (-610)
女	50,010 人 (-603)

人口移動の詳細については
広島県 人口移動 月報 で
検索

税などの納期(普通徴収)

- 国民健康保険税(第5期)
 - 介護保険料(第5期)
 - 後期高齢者医療保険料(第5期)
- 納期限 11月30日(木)まで

夜間収納窓口(19時まで)
祝日を除く木曜日

航空機の騒音測定結果(9月分)(Lden)

- ▶正広局(本郷町善入寺正広)=48.7
- ▶本郷局(本郷町船木川西上)=53.3

あ・と・が・き
市の公式フェイスブックがあるのを知っていますか。フェイスブックでは市からのお知らせや三原の風景などを写真付きで日々、紹介しています。今年度の上半期、閲覧数ベスト3は、ミスやっさ決定、カープマフラータオル販売、やっさ祭り築城450年パレード。どれも1万人以上の人に関覧してもらうことができました▼今月は築城450年事業のフィナーレを飾る浮城まつり。恒例の小早川甲冑部隊の練り歩きに安芸高田市・北広島町・尾道市から援軍が加わります。そのようなすはフェイスブックで紹介する予定です。ぜひ、ご覧ください(F)